

## 資料4

### ライフスタイルイノベーションWG 報告資料 ～未来の暮らし創造塾～

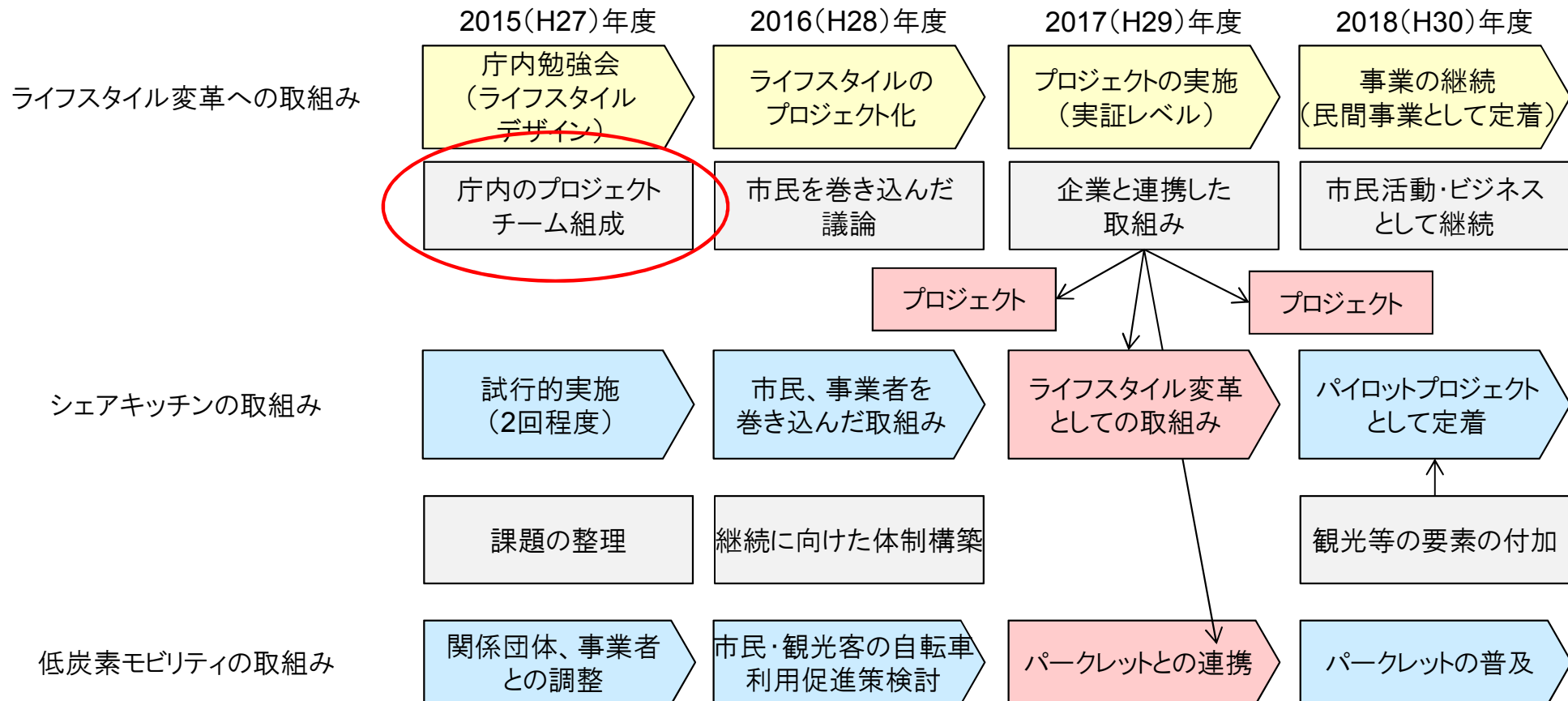
第14回あきたスマートシティ・プロジェクト推進協議会

場所:秋田市環境部 大会議室

平成27年10月27日(火)

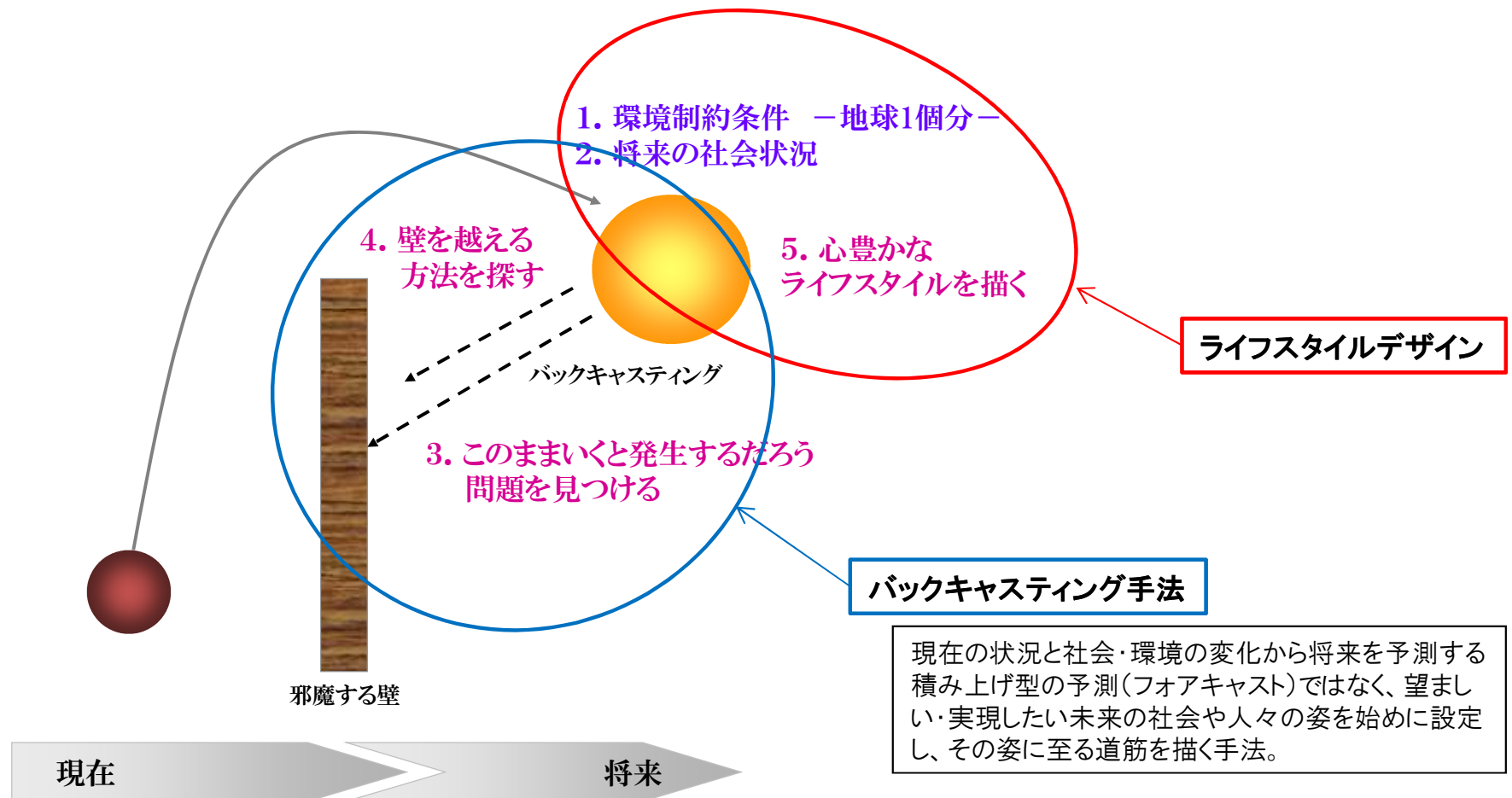
# 1 ライフスタイル変革のための「未来の暮らし創造塾」

- ・ ライフスタイルデザインの実施を、市民、企業とともに進めるため、初年度は市内の勉強会をスタートする。
- ・ 市内有志によるライフスタイルデザインの実施を1年間かけて行い、次年度は勉強会のメンバーを中心としたプロジェクトチームを組成し、市民、企業とともに、秋田らしいライフスタイル変革をプロジェクトとして実現していく。
- ・ 勉強会の名称は「未来の暮らし創造塾」と名付ける。



## 2 ライフスタイルデザインとは

- ・ 環境制約条件と将来の社会状況をもとに、将来実現したい心豊かなライフスタイルをシーンとして描く。
- ・ ただし、現在の単純な延長では、心豊かなライフスタイルの実現に対する障害(壁)が存在する。
- ・ その壁を超える方法を探ることが、ライフスタイル実現のための施策・政策につながる。



(出所) 東北大学大学院環境科学研究科 古川柳蔵 資料より

### 3 未来の暮らし創造塾の概要

#### • 全5回の勉強会でライフスタイルのデザイン手法を取得する

- 演習形式の勉強会は全5回。
- 参加者には事前に課題を与える。座長(古川准教授)が各自の課題に対し講評をし、ライフスタイルデザインに対する考え方、手法を学ぶ。
- 第5回までに、参加メンバー全体で100個のライフスタイルがデザインされることを目指す。
- 2月に創造塾の成果である、ライフスタイルの発表会を行う。

項目	内容
座長	古川柳蔵 東北大学大学院 准教授
構成員	秋田市職員 11名
事務局	秋田市環境部
協力企業	株式会社日本総合研究所

	日時	タイトル	内容・目標
講演会	6月9日(火)	「秋田らしい心豊かな暮らしの実現に向けて」	ライフスタイルデザインの紹介 創造塾参加者の募集
第1回	7月28日(火)	ライフスタイルのデザイン方法	ライフスタイルデザインの基本的な考え方を習得
第2回	8月24日(月)	社会状況の設定とバックキャストイング	バックキャストイング手法によるライフスタイルデザインを理解する
第3回	10月7日(水)	ライフスタイルデザイン	これまで学んだことを基に数多く(5個)のライフスタイルをデザインする
第4回	11月12日(木)	ライフスタイルデザイン	ライフスタイルデザインのレベルアップを図る
第5回	1月13日(水)	ライフスタイルデザイン提案型事業・政策検討	100個のライフスタイルを実現するプロジェクト、政策を検討する
発表会	2月10日(水)	ライフスタイルデザイン発表会	職員が描いたライフスタイルとその実現方法を広く提案することで、ライフスタイル変革の取組みに市民、企業を巻き込む

## 4 ライフスタイルデザインの例

- ・ ライフスタイルデザインは、実現したい生活を具体的な生活シーンで表現する。

### <季節に合わせた暮らし>



夏の暑い日は窓を開けて過ごしています。  
家では『太陽光発電機能付きすだれ』を窓の外にかけているため、窓でエネルギーをつくりながら、日照りを防いでいます。  
また、庭に打ち水をして風を起こし、すだれの隙間から入ってくる風で涼みます。  
夏になる前に、すだれを準備するのが恒例行事です。  
秋になるとすだれは屋根にかけて発電のみ行います。  
一方、冬、寒くなってくると太陽光を少しでも家の中に入れていたため、庭の地面に置いた鏡で太陽光を反射させ窓際の天井部分に日が入るようにしています。部屋は明るく暖かくなります。天井部分には黒っぽい壁紙を使用しています。家は部屋の仕切りの壁がパーティションのように簡単に動かすことができ、季節によって壁を動かして部屋のサイズを変更しています。  
夏の昼は南の窓から出来るだけ離れて過ごせるように壁を北側に動かして更に風通りがよいように少し斜めにして隙間を開けるのです。  
冬は南の窓側で過ごす方が暖かく、暖房を入れるにしても少しの容積でいいように壁を南側に移動させてリビングを少し狭くします。季節に合わせた暮らしです。

(出所) 東北大学大学院環境科学研究科と電通グランドデザイン・ラボラトリーとの共同研究より

## 5 他地域における事例（豊岡ライフスタイルデザインプロジェクト 兵庫県豊岡市）

- 豊岡市では、平成25年(2013年)から東北大学(石田教授、古川准教授)とライフスタイルの共同研究を実施。
- 市職員(7名)と企業(6名)でワーキングを組成し、71個のライフスタイルを創出。その中から、3つのライフスタイル事例に着目し、ライフスタイル実現のための事業を考案。

### ★豊岡の食材でつどう暮らし

2030年、地元の家庭菜園や農家から余剰農産物等を回収し、各地域の出張夜市で販売し、仕事帰りのお客さんで賑わいます。生産者はロスを収入に換え、消費者はWEBサイトから商品の生産・出荷情報を入手でき、予約購入や生産者との情報交換も可能となります。農産物の回収・配送・販売には、電気自動車や水素自動車を使用され、保存にはネイチャーテクノロジーを応用した「野菜いけす」などを利用します。一方、地域の高齢者は、自分が育てた食材を持ち寄り、共に料理や食事をする「とよおかキッチン」に集います。地域の公民館で定期的に行い、会員による会費によって運営されます。料理教室やコンテストも開催されます。発展すれば、地域の子どもの預かり、面倒を見る役割も担います。地域コミュニティへの参加意識と達成感を感じるようになります。

### ★「生命の循環を感じる暮らし」

2030年、山に入ることが多くなり、みんなで景色を楽しんだり、山や川の草からバイオ燃料をつくり、その近所でそのエネルギーを使います。お金に変えるようなことはなく、地域で共有して使用する仲間意識が強まります。

山に入ることが増えて、森林の手入れができていないことに気が付き、自治体と協力して獣害対策等を練っています。森林の手入れは、住民の美意識を表現する場になっています。

山の樹の皮を木質バイオマスとして、利用するようになり、昔とは異なる循環システムが出来始めました。

その結果、作業を繰り返すうちに、道具に愛着を持ち、作業道具を始め、身の回りのものを長く使うようになり、近所の資源循環の一部になることに充実感を得ます。自分が外れると迷惑をかけてしまいます。大作業は手間返しのように、手間のやりとりを行い、大事な仕事には汗をかいて、その打ち上げは大騒ぎします。日常生活に「循環」を感じるようになります。

### ★「とよおかマイストーリーバッグ」

2030年、豊岡市で生まれた子どもは、出産祝いに豊岡市から「豊岡のかばん」のマザーズバックを作ってもらえるチケットをプレゼントされます。そのチケットを使って発注すると、子どもの名前を入れて、色やデザインを選ぶことができます。「豊岡のかばん」のマザーズバックは、子供の成長と共にリメイクされ、通園・通学用の補助バックから、名前の刺繍を入れた名刺入れ・印鑑入れなどに変化します。子どもは、鞆だけではなく自分の持ち物すべてに愛着を持ち、物を大事にするようになります。大人たちもそれを見て、自分たちの使い捨て習慣を改める風潮が出てきました。

一方鞆産業界では、マザーズバックを皮切りに、ネイチャーテクノロジーを活用した製品開発がすすめられ耐久性があり、軽量で抗菌・汚れが防止できるような素材の鞆が流通します。鞆が高級ながらも大事に使われるようになるため、鞆の修理屋さん、クリーニング屋さん、リメイクする職人が増え、かばん職人の職業価値があがります。後継者も増えて、鞆産業が盛り上がりします。

(出所) 豊岡市ウェブサイト <http://www.city.toyooka.lg.jp/www/contents/1391134056204/index.html>

# 6 他地域における事例（豊岡ライフスタイルデザインプロジェクトの成果）

## ライフスタイル事例：「とよおかマイストーリーバッグ」

**<問題設定>**

- 豊岡のかばん産業は歴史もあつた国内シェアが高いにもかかわらず、OEM中心で知名度、地元での愛着度は高くない。ブランド力が浸透していない。
- 豊岡のかばんを地元ではあまり使用しない。
- かばんをリフォームして使い続けるという意識がほぼ無い。
- かばん産業の活性化策として、かばん単体のブランディングに視点が集まりがち。

**<実現における制約>**

- かばん業界の産業構造（OEM中心の現状）
- かばん耐久性が技術課題
- 事業を推進できる人材
- 事業費用

**<ライフスタイルの概要>**

豊岡市で生まれた子どもは、出生時に豊岡市から「豊岡のかばん」のマザーズバッグを作ってもらえるチケットをプレゼントされます。そのチケットを切って発注すると、色やデザインを選び、名前を入れてくれることができます。子供の成長と共にリメイクされた宇宙の補助バッグから名前がのびのびと入る入れ物や印刷入札に変化します。子どもは自分の持ち物すべてに愛着を持ち、大事に使うようになります。大人も民間企業です。

**<ロードマップ>**

1年目	2年目・3年目	4年目
かばん産業の現状調査 かばん産業の活性化策 かばん産業の活性化策 かばん産業の活性化策	マザーズバッグの企画 マザーズバッグの企画 マザーズバッグの企画	マザーズバッグの企画 マザーズバッグの企画 マザーズバッグの企画

**<新規事業案>**

豊岡のかばんと創るマイストーリー

一生もの!! マザーズバッグ

かばん産業界革命

豊岡発見ツアー

2030年に目指すライフスタイル

①豊岡のかばん業界へ支援  
マザーズバッグ補助パッケージを納入し、リメイクして、永く使う物語を築く  
地域のE/Mに愛着を持つ

②豊岡のかばん開発プロジェクト  
エンジニアリング  
マイストーリーバッグの広報活動（サイト/紙本）

③素材の技術開発支援  
耐久性・軽量化・抗菌・汚れ防止（自然由来型抗菌剤）

④地域住民の共創の醸成  
小学校に課外活動（オリジナルバッグ製作）  
社会科見学（オリジナルバッグ製作）  
かばんの歴史・技術を学ぶ場づくり

## ライフスタイル事例：「生命の循環を感じる暮らし（農から水・山の循環へ）」

**<問題設定>**

- 長年コフノリとの共生に取り組んできたなかで、生態系と「農」との関係への理解は進んできたが、水と山の循環関係の理解は進んでいない。
- 人が入らなくなった山では陽がささず草が生えない、残り少ない草花もシカ・猪などの繁殖により根こそぎ食われる状態になり市内の山林の荒廃が進んでいる。
- 自然資源の循環利用が忘れられ、化石燃料に依存する暮らし。

**<実現における制約>**

- 住民にとって山林は危険で不可侵な領域といったネガティブイメージが先行
- 山林の活用をよよく知る人材不足
- 集落内での合意形成

**<ライフスタイルの概要>** 山林自然資源の循環活用を「知る・守る・活かす」「自然共生循環リベリッ」。子供たちが田や山林で年配者に道具の使い方から育成の仕組みを学び、エネルギーは木質バイオマスを活用したサブシステムを使った自立型集落山集落となる。

**<ロードマップ>**

1年目	2年目・3年目	4年目
山林資源の調査 山林資源の調査 山林資源の調査	山林資源の調査 山林資源の調査 山林資源の調査	山林資源の調査 山林資源の調査 山林資源の調査

**<新規事業案>**

森林教育

大森なものをシェアする新しいコミュニティ

林業廃棄物(樹皮)

発酵熱利用

堆肥利用

火のある暮らし

政策案

- 木質バイオマス系廃棄物発電機器導入補助
- 山林整備事業サポート
- 地域交流および研究開発拠点としての施設利用
- 山林利用現況緩和・サポート
- 山林マスター育成制度（専門家・勉強会など）
- 地域サポート（確保のための宗匠地区の学生誘導）
- 自然から学ぶ技術
- 発酵熱利用の除雪・消雪
- 炭やもみ殻使用の浄化・消臭
- 山野草（ハーブ）の効能を利用した防虫・除菌剤の開発
- 生物・菌性利用の防敵対策
- コンポスト利用

## ライフスタイル事例：「豊岡の食材で集う暮らし」

**<問題設定>**

- エコロジー重視の上昇に伴い、食料物の移動量が減少し、地方でも地産地消の動きが顕著。
- 家庭菜園や農家では、食べ残しや廃棄物が多い。不採りや廃棄物が多い。農産物のロスがある。
- 地産地消の推進が、高齢化社会の「仕事帰りの買い物スタイル」に適合していないため、欲しい野菜に欲しい食材が手に入りにくい。
- 地産の人々とのつながりが薄く、人の関わりや地域コミュニティのつながりが希薄になっている。
- 子どもや若者が地域を離れ、高齢者だけが暮らしている。

**<実現における制約>**

- 農産物や農家から商品化できない農産物を低価格で回収・配送する仕組みを構築する必要がある。
- 新鮮な食材で提供するエコシステム。食品ロス削減の推進。
- ライフスタイルの実現のための必要となる人材の確保。
- 地域から学ぶ技術、事業の継続。
- 地域から学ぶ技術、事業の継続。

**<ロードマップ>**

1年目	2年目・3年目	4年目
地域資源の調査、現状、ニーズ調査 地域資源の調査、現状、ニーズ調査 地域資源の調査、現状、ニーズ調査	地域資源の調査、現状、ニーズ調査 地域資源の調査、現状、ニーズ調査 地域資源の調査、現状、ニーズ調査	地域資源の調査、現状、ニーズ調査 地域資源の調査、現状、ニーズ調査 地域資源の調査、現状、ニーズ調査

**<新規事業案>**

自然との関わりで心豊かさ増大

人と人の関わりで心豊かさ増大

とよおか夜市

とよおかキッチン

政策案

- 余剰農産物等の集配、夜市運営支援
- 自然から学ぶ技術開発支援
- 非農家向け農業技術講習会の開催
- 新しい地域コミュニティのあり方検討委員会への提案
- 地域版放課後児童クラブへの支援
- 自然から学ぶ技術
- 新鮮さを保つための豊岡の気候に合ったエコ保存技術（野菜いけすなど）
- 農産物の回収・配送を低炭素で運用する流通ネットワーク技術（アリイハチの行動など）

## 7 「未来の暮らし創造塾」今後の進め方

- 来年度は対象を市民、民間企業に広げ、ライフスタイルを実現するプロジェクトのアイデアを創出。
- 2年後には、プロジェクトを試行的に実施。
- 2018年(平成30年)からは、民間事業として継続的な実施を図る。

